

令和3年度 学校経営方針

学校力をバランスよく高め、 児童の「他者との関わりの中での自己形成」を促し、 児童・保護者・地域から、より信頼される学校に

学校力には次の6つの要素がある。学校独自に発展を遂げているもの(スクールアイデンティティ)としての(1)本校ならではの特色ある教育、(2)保護者や地域との連携・協働。そして、どの学校にも共通する重要なものとしての(3)安全を保障する力(危機管理)、(4)成長を保障する力(児童指導)、(5)学力を保障する力(学習指導)と以上を運営していくものとしての(6)職員の組織力。これら6つの要素の力をバランスよく高め、児童が他者との関わりの中で自己形成を促進できるようにし、児童(通ってよかった)・保護者(通わせてよかった)・地域からより信頼される学校にしていきたい。

※[]内は主担当。全てに特に進捗が遅いものには教頭が関わる。

1 本校ならではの特色ある教育の充実

学校教育目標達成のための「目指す児童像」と「教育指標」の重点的取組(本校の特色ある教育)

教育目標	美しさの分かるやさしい子ども	よく考え勉強する子ども	健康でたくましい子ども
目指す児童像	1 心のこもった挨拶、返事、言葉遣いのできる子 2 互いのよさや努力を認め合い、思いやりのある子	3 人との関わりの中で、考えを広めたり深めたりし、学び合いができる子	4 めあてをもち、体力づくりや健康な生活に向けて、規律正しく粘り強く努力できる子
重点的取組	① 性の多様性を踏まえた人権教育について、組織的・計画的・臨機的な指導をするともに、 集大成としての研究成果(公開授業) を地区内小・中学校に発信する。 <small>[人権、児童指導、教頭]</small> ② スキルよりメンタルを重視した 挨拶・返事・言葉遣い ができるよう、意義を理解させながら指導し向上させる。 <small>[児指・児童会・担任・人権]</small> ③ ワールドグループでの活動により顔の見える関係づくりや思いやり、自治力を活用した上級生のリーダーシップを育成する。 <small>[WG]</small> ④ 「ありがとうの木」や各学級の中で互いに、親切やよい行い、努力等を見つけ、認め合うことができる子を育成する。 <small>[道推教]</small>	⑤ ICT機器を効果的・計画的・積極的に活用し、プレゼンテーション力の育成を図る。 <small>[情報教育]</small> ⑥ ICT機器の活用や学校内の人と関わる機会を工夫しながら 学習への意欲の向上とコミュニケーション力 を育成し、自己形成を促進する。 <small>[総合・担任・教務]</small> ⑦ 年間図書貸出数の維持と 家読習慣を定着 させるとともに、ブックトークや放送を使って「聞く読書」を行う。 <small>[図書室各担当]</small>	⑧ 適切なめあての設定と定期的計画的に振り返りを行わせ、めあて達成のための努力を「 賞や証 」で認め賞賛する。 <small>[担任]</small> ⑨ 児童の 自治力 を育成しつつ、その場指導・繰り返し指導・定期的指導を推進し、 健康で安全な生活と規律 を向上させる。 <small>[児童指導]</small> ⑩ 体力向上に向けて、業間運動の工夫や外遊びの奨励、体育の授業の運動量の確保を行う。 <small>[体育主任・担任]</small>
教育指標	5 「ふるさとを忘れない、世界の中の日本人」 総合の時間を中心に、年間指導計画に次の観点を位置づけ、その育成に努める。		
重点的取組	⑪ 特に地域の 自然や社会 に目を向け、課題を見つけ、体験的・協同的学びを通して、ふるさとのよさを知り、大切にしていこうとする態度を育てる。 <small>[総合]</small> ⑫ 体験的な課題解決的な学習を通して、諸外国の異文化や価値観を知り、広い視野をもってそれらを尊重し、その上で日本のよさや伝統文化について理解を深め、大切にしていこうとする態度を育てる。 <small>[国際理解]</small>		

2 本校ならではの特色ある家庭や地域との連携・協働

- (1) P T A活動やおやじの会の活動に積極的に協力する。[教頭・教務]
- (2) H Pや各種たよりについて、記事を見て家族での話し合いが促進されるような内容を工夫する。また、教員はH Pに月3回以上のU Pを行う。[情報教育・担任]
- (3) 正しい生活習慣の育成、充実した家庭学習の実施に向け、家庭の協力を得られるよう連携して取り組む。[学習指導・養護]
- (4) 保護者や地域の運営する「児童の登下校の安全確保に関する ①旗当番編成 ②登下校班編成 ③見守りボランティア」について、情報を共有するとともに連携・協力する。[交通・教頭]
- (5) 創立150周年記念式典に向けて、計画的に準備・実行委員会等を運営する。[教頭・教務]
- (6) 学校運営協議会の承認と協力を得ながら、コロナ禍における学校教育の現状を共有し、本来学校の仕事ではない業務や意義の小さい行事等について計画的に委譲縮小削除していけるよう検討を進める。[教頭・教務]

3 安全の保証(危機管理)

- (1) 生命尊重・人権尊重

児童に人権や人権尊重の意味を理解させ、生命尊重・人権尊重の精神を学校中に満たす。〔人権〕

(2) 学校安全

- ① 全国の学校事故を取り上げ他山の石とし、マニュアルの重要事項を確認する機会とする。〔教頭〕
- ② 様々な想定避難訓練を行うとともに、**感染症防止**を含めた危機管理マニュアルをより実態に合ったものにしていく。〔避難訓練・養護・安全教育・教頭〕
- ③ 高富士山登山〔安全教育〕の運営を維持改善する。〔教務・地域連携・教頭〕

(3) 組織的な児童トラブルの適切な処理

- ① 児童指導主任が児童指導やトラブル処理の中核として機能する組織を運営する。〔児童指導〕
- ② 児童への指導や事実関係について、保護者にいち早く知らせ確認する。〔各担任・関係者〕

4 成長の保証(積極的児童指導・学業指導)

(1) 規律と自由の重視・両立(教育基本法第6条)〔児童指導・全職員〕

主体性を生み出す「自由」と、やるべきことをする「規律」の両立は、成長の保証の基盤である。

(2) 指導・賞賛・傾聴の重視〔全職員〕

信頼の原因を分析してみると、その主な要因は次の3つである。

- ① [指導]児童が納得できる指導をする
- ② [賞賛]児童が誉めてほしいことを誉める
- ③ [傾聴]児童と意見が異なっても児童の意見に耳を傾ける

(3) 望ましい集団の育成の充実〔児童指導、特活〕

望ましい集団とは、「自己指導能力」を育成するための次の3つの留意点(S63文部省指導資料)を満たした集団である。3つの留意点とは次のとおり。

- ① 自己存在感がある
- ② 共感的人間関係がある
- ③ 自己決定・集団決定の場がある

(4) 望ましい集団育成・規律育成の具体策としての自治力の活用

「存・共・決」を意図的に成立させるための中心的な働きかけとして、「自治力」を育成する。自治力とは、「やるべきことについて、上の学年の児童を中心として声をかけあったり、注意し合ったりしながら、自分たちの力で、やれるようにしていく力」のことである。

その場にいる上級生を中心として自治力が働くよう指導しながら、上級生の自己存在感、そのグループの共感的人間関係、上級生の自己決定、グループの集団決定の成立をより多くしていく。

5 学力の保証(学習指導)

(1) 他者との関わりの中での自己形成の重視〔全職員〕

主体的・対話的な深い学びは、他者との関わりの中で自己形成を重ねることで生まれる。

(2) 一人一研究授業による授業力の向上〔教務・学習指導〕

研究授業と授業研究を通して授業力の向上を目指す。授業のねらいを達成し、且つ、授業の内容や方法(ICT機器等)を活用して他者との関わりの中での自己形成を促す。

(3) 家庭学習の充実〔学習指導・担任〕

児童の実態に応じた適切な宿題と家庭学習を充実させる。自主学習の例を児童と保護者に示すとともに、児童が帰宅後に困らないように学習の定着と意欲の向上を図る。

(4) 特別支援教育の充実〔特支教Co.・特支学担・学担〕

- ① 組織として「困り感」をもつ児童の正確な実態の把握と、向上に向けた合理的配慮を行う。
- ② 保護者や外部機関と連携した次のステップへの準備を行う。
- ③ 学習環境のエバーサルティライズについて、下の観点に即して、**実態に応じて組織的に推進する**。

安心感	落ち着いた学級	1 ルール明確化 4 教室環境整備	2 よさを見つけ賞賛	3 違いを認め合う場を重視
分かり易さ	分かる授業	1 授業規律の確保 4 失敗や試行錯誤の許容	2 見通しをもたせる	3 視覚的・具体的指示 5 習熟度に対応した目標設定

6 職員の組織力の向上

(1) 学校評価をもとにしたPDCAの重視〔教頭〕

- ① 学校評価結果をもとにした組織的・計画的・継続的な検証改善を確実に持続する。
- ② 「学校評価を踏まえた次年度計画に向けた検討事項」について、適切な組織的・計画的・継続的な検証改善を行いながら、確実に実施する。

(2) 学校課題研究の重視〔教務主任・研究主任〕

学校課題研究が、関係職員の日常実践の中で強く意識されたものとなるよう、また、研究成果と課題が、関係職員で意味あるものとして共有されるようなものとなるよう組織的・計画的に運営し、学校課題研究が児童の健全育成ならびに関係職員の資質能力向上に資する(勤務してよかった)ものとなるようにする。

(3) 凡事徹底〔教頭〕

服務規律、法令と指示の遵守、当たり前のことを当たり前に行う。

(4) 具申や提案が重なる組織〔教頭・教務・全員〕

まずは自分の案をつくり、組織として具申が重なり、案が精査されていくように動く。どうすればいいか尋ねるのではなく、担当者が組織的に「案」を考え、具申する。

(5) 働き方改革〔教頭〕

- ① 見直して、検討して、意義の小さい行事等の削除をためらわず行う。
- ② 16時30分勤務終了を意識した放課後の組織的活動を堅持する。
- ③ 本来学校の仕事ではない業務について、計画的に漸次委譲縮小していく。